

赤い風船

－ 大切な「ごめんね」のひとつこと －

- 1 学年 第3学年〔前期〕
 2 主題名 真心をもって〔2－(1)〕
 3 ねらい 気持ちのよいあいさつが大切だと気付くさと子の気持ちに共感することを通して、礼儀の大切さに気付き、だれに対しても真心をもって接していこうとする態度を育てる。
 4 資料名 「赤い風船」
 5 展開

	学習活動と主な発問	児童の反応	指導上の留意点
導 入	1 あいさつパズルをする。 ○ どんなあいさつの言葉が入るでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ありがとう。 ・ すみません。 ・ しつれいします。 	○ 「あいさつの言葉」(「心のノート」P 38)をクイズ形式で出し、意欲をもたせる。
展 開	2 資料「赤い風船」を読んで話し合う。 ○ お母さんに「あやまりなさい」と言われたとき、どうしてあやまりたくなかったのでしょうか。 ○ 似ているところと違うところを見つけましょう。 ◎ 赤いボールを見ている時、さと子はどんなことを考えたでしょう。 3 詩の中に入るあいさつの言葉を考える。 ○ 言っても言われてうれしい気持ちになるのは、どんなあいさつの言葉ですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 悪いことはしていないから。 ・ ぶつかってきたのは、女の子のほうだから。 ・ 気がつかなかったのでよけられなかったから。 ・ ぶつかったのが似ている。 ・ 女の子とさと子の立場が似ている。 ・ さと子はあやまらなかったけど、6年生は悪くなくてもあやまった。 ・ わたしも女の子に謝ればよかった。 ・ お母さんよりも先に、わたしが女の子に声をかければよかった。 ・ わたしが、何も言わなかったから、女の子はずっと悲しい思いのままだったろうな。 ・ 自分が悪くないと思っている時でも、あやまることで、気持ちがよくなることがあるんだな。 ・ ごめんね。 ・ がんばったね。 ・ ありがとう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料の前半部分を読み、考えさせる。 ○ 役割演技をすることによりさと子の気持ちに共感させる。 ○ 資料の後半部分を読み、考えさせる。 ○ 資料の前半と後半との類似点・相違点を話し合わせることにより、さと子の気付きに共感させる。 ○ ワークシートに書かせたり隣同士で考えを話し合わせたりすることにより、相手のことを考えて接していくことが大切だという考えを深めさせる。 ○ 実際にあいさつをさせることで、気持ちのよいあいさつの大切さに気付かせる。
終 末	4 教師の説話を聞く。		○ 展開後段の詩と関連させながら話すようにする。

6 授業の概要

(1) 主題について

礼儀は、敬愛の気持ち、思いやりや感謝の心などを、時や場、相手に応じた態度や言葉で表現されるものであり、円滑な社会生活や気持ちのよい人間関係を築くために、是非身に付けたいものである。

よい人間関係を築くには、まず、気持ちよい応対ができなければならない。あいさつやマナーなど作法も大切であるが、相手を敬愛し大切にしようという気持ちをもって対応することも同様に大切である。相手の気持ちを自分に置きかえて考えることができ始めるこの時期に、真心をもって人と接することや周囲への配慮のある言動をとることの大切さを自覚させるとともに、実践的な態度を育てたい。

(2) 自作資料活用のポイント

ア 中心場面

資料の作成に当たり、その時、その場に応じた適切なあいさつを交わすことが、よりよい人間関係を作る上で大切であることに気付かせたいと考えた。そのため、児童と同年代の主人公と一緒にあって、心のこもったあいさつの大切さに気付くことができるよう、さと子の思いを考えさせたい。

イ 資料の分割

資料を前後半で分割して提示する。前半の場面では、「謝りたくない」と思っている主人公の気持ちを、役割演技等を取り入れることにより素直に表現させるようにしたい。後半の場面では、主人公が考えたことをワークシートに書く活動を取り入れることにより、自分の考えを深めさせたい。

(3) 指導過程の工夫

ア 「心のノート」活用の工夫

導入のクイズには、「心のノート」P38の「心がかよい合う『あいさつの言葉』」にある言葉を活用したい。心のノートに記入させるのではなく、3～4個のあいさつの言葉をクイズ形式にして全体へ投げかけることで、普段よく使っている言葉も、挨拶の言葉だということを認識させ、本時へとつなぐことができる。また、児童の実態をふまえ、資料につながるようなあいさつの言葉を選ぶことで、資料への導入とすることができる。

イ 役割演技の工夫

主人公が、女の子に謝りたくなかった理由を考えさせる時、役割演技を取り入れ、お母さんの「さと子、ちゃんと謝りなさい。」のあとに続くさと子の言葉を言わせることで、効果的にその時の気持ちを考えさせたい。

ウ 展開後段の工夫

展開後段で、「ありがとう」（しょうじたけし）の詩を活用する。その詩の「ありがとう」というあいさつの部分を隠し、言っても言われても気持ちのよいあいさつを考えることで、自分自身のあいさつの仕方も振り返ることができるようにしたい。

